

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム ございしょの里2号棟

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0371100413		
法人名	有限会社 古川商事		
事業所名	グループホーム ございしょの里2号棟		
所在地	〒026-0301 岩手県釜石市鶴住居町第23地割21-1		
自己評価作成日	令和2年12月14日	評価結果市町村受理日	令和3年3月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>活気あるグループホームを目指し音楽療法や全体でのレクリエーションを取り入れ他のユニットとの交流の場も増えてきている。各ユニット日々レクリエーションを取り入れたりと活動的に行っている。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action\\_kouhyou](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

根浜海岸の程近くにある2ユニットの事業所は、10年前の東日本大震災では2階まで浸水被害に見舞われたが、今日、その面影はない。「太陽の如く『あかるく、あたたかく、まるく』」とする理念のとおり、利用者はゆったりとした安心感の下で、職員と一緒に笑顔で暮らしている。午前、午後のお茶の時間を寄り添いの時間に充て、職員は利用者の希望をさりげなく聞き出し、或いは表情から受け止めて支援に活かしている。コロナ禍で外出が制限される中において、一緒に敷地内を散歩したり夏野菜や花きを育て、室内では「はちまき体操」などの身体を動かすリクリエーションに興じることで、新たな会話や笑顔を生み出している。心穏やかに笑顔で暮らしながら適度な運動も行い、利用者は色合いに配慮された食事を楽しみにしている。運営推進会議に職員代表が出席している数少ない事業所である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和3年1月28日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている ○ 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ございしょの里2号棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念を、ホールに提示している。ミーティングで、理念について職員で話し合い実践につなげております。	支援の在り方を「太陽の如く『あかるく、あたたかく、まるく』」とするの理念の下で、利用者と心をつつにしながら、認知症の諸症状の緩和と笑顔溢れるゆったりとした楽しい生活の提供に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染防止の為、地域交流が出来なかった。今後回復次第以前のように交流するように努力します。	東日本大震災以前に比較して地域との繋がりは希薄になったものの、近所の方々から野菜や鮮魚の差し入れをいただき、事業所から避難訓練の実施を案内している。今年は、コロナ禍のため、地域の方々と一緒に山の神様祭りは、事業所だけの食事会に縮小した。管理者は、近傍の幼稚園との交流の糸口を探したいとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所独自の取り組みはしていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、サービスの利用状況や行事実施報告を行い、委員の皆様からアドバイスを頂いており、そこで頂いた意見を参考にしながらサービスに活かしております。	コロナ禍のため、12月は書面会議とた。委員には行政や地域の関係者、利用者代表、利用者家族代表のほか、消防団員、駐在所長も委嘱し、事業所からは社長、管理者、事務担当職員に加え、3年程前から職員代表も出席し、関係者が共通の理解の下で事業所運営を応援している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員に、行政職員がおり、色々相談して協力関係を築いております。	運営推進会議に参加している地域包括支援センターを兼務する市の職員からは、行政情報の提供を受けているほか、入居を必要とする市民についても相互に相談するなどしている。両ユニットで生活保護受給者が3名おり、市担当課との繋がりが大切になっている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ごさいしょの里2号棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が利用者の見守りを行い、居室や玄関に鍵をかけていません。安全確保のため夜間のみ玄関に施錠しています。	身体拘束廃止委員会は、代表を含めた職員全員が参加し、3ヵ月毎に開催している。建物の構造上、1号棟は二階建て、2号棟はデイサービスの2階にある。相互に行き来できる状態にあるが、複数ある階段やエレベーターにも、昼夜とも施錠することなく、全て職員の見守りで対応している。家族の了解の下で1名の方にセンサーマットを使用している。スピーチロックについては、それらしい言葉を耳にした時には、管理者が注意喚起している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1度ではありますが内部研修を行い虐待はあってはならない指導をしております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護を利用されている方1名おります。全スタッフが専門的な外部研修を受けていません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・解約については、サービスを利用する前に、利用者及び利用者家族に契約書・重要事項説明書を用いて説明してその上で署名捺印を頂いております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に相談及び苦情受付窓口を設けている事を記載しております。玄関に「投書箱」を設置しています。苦情や要望はありませんが担当スタッフが敏速に対応するようになっております。	居室担当職員は、事業所開設時から毎月家族にお便りを届け、家族来所時には、居室担当に限らず面談した職員の誰でもが生活の様子を伝え、要望等を伺っている。利用者からは、毎日のお茶の時間に食べ物の希望が話されることが多い。出来るだけ希望に沿うよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングで職員よりレクリエーションで使うもの(古布・手作り体操道具・健康器具等)提案され購入するなど意見を反映している。	利用者目線で支援していることもあり、職員の提案は、介護に必要な日常の用品や行事に関するものが殆どである。特にコロナ禍の今年は、職員の提案をもとに、事業所内での軽い運動や布マスクづくりなど、職員の提案をもとに様々な工夫を凝らして行っている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ございしょの里2号棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を受講している。 内部研修も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの定例会に参加している。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを利用する本人から意向を伺うよう努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを利用する御家族からも意向を伺うようにつ溶けております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の基本情報、家族からの情報をサービスケアのの参考にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者、職員が楽しみ事を一緒に楽しむよう心がけております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1回のお便りを通して、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	2か月に1回の美容師の訪問による髪のカットや談笑が利用者の楽しみとなり馴染みの人との関係が途切れないよう支援に努めている。	時折、若い頃に働いていた会社や買い物に出掛けたデパートの話が出るが、今では、毎年お正月に出掛ける「釜石観音」が馴染みの場所ではないかとしている。利用者の馴染みの人は家族であり、遠方に住むお嫁さんから定期的に届く葉書を大切に持ち歩いている利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で助け合ったり支えあったりすることが出来るような支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現時点においては、契約終了後に継続的な関わりを必要・希望するかたは、おりませんが今後、継続的な関わりを必要とする利用者・家族がいたら誠意を持って対応していきたい。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の話に耳を傾け、希望や意向の把握に努めている。	午前、午後のお茶の時間や二人きりになれる薬の塗布の間など、ゆったりした時間を利用して利用者に寄り添い、意向の把握に努めている。両ユニット合わせて5名の利用者は、目を見開いたり、身体全体をゆするなど、表情や仕草で意思を伝えている。食べ物が話題になることが多いが、利用者共通の願いは、七夕の短冊のとおり「ここで暮らしていきたい」「健康で長生きしたい」と、管理者は受けとめている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時、本人や家族から話を聞いている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ございしょの里2号棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活ノート、介護記録、申し送りノートに記録し、引き継ぎ時、口頭で状況報告の上申し送る。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、家族・本人の希望や意見を取り入れて作成している。	毎月のユニット単位でのミーティングで、利用者全員についてのモニタリングを行なっている。介護計画の見直しは3か月毎に行い、職員全員での議論を経て、計画作成担当者である施設長(社長)が生活記録も活かしながら成案をまとめ、家族に説明している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活ノート、介護記録、申し送りノートに記録し、引き継ぎ時、口頭で状況報告の上で申し送る。 (職員間の情報交換現状の把握)		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホーム内でのデイサービス・ショートステイは実施していない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には、家族同行をお願いしています。但し、緊急時については、家族の希望を優先させ職員が同行支援する事があります。	かかりつけ医受診は家族同行としているためか、毎月1、2回訪問診療に訪れる医療機関(内科、脳外科、在宅療養)にかかりつけ医を変更する例が多く、現在10人が受診している。薬は薬剤師が届けてくれている。家族がかかりつけ医受診に同行する場合には、バイタル帳やメモを託している。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ございしょの里2号棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師がいないのでバイタルを測定し日頃と変わった時は、すぐに病院受診しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院が必要になった時、その利用者の経過記録を報告する事や普段の様子(介護サマリー)を詳しく伝えるようにしている。早期退院計画は、していない。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	異常時は、かかりつけ医に連絡、受診し医師の判断をあおぐようにしています。	これまで7名の看取りを行い、半数の職員は看取りを経験している。現在も1名が看取りを希望している。看取りは、訪問診療の医師の下で行っている。重度化が進行した段階で、訪問診療の医師が家族に伝え、以降の対応は事業所も一緒に家族等の関係者と協議している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルがあり職員がいつも閲覧できる場所に置いている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は、年2回行っている。	消防団の協力も得ながら火災想定での避難訓練を行なっている。自動通報装置を設置し、消防のほか関係機関、職員に通報される仕組みが出来ている。訓練に立会した消防署からはスムーズに避難できたとされたが、津波災害時の避難に置き換えれば、時間的な課題が残るとしている。	東日本大震災から10年の節目に当たり、当時の被災状況等も念頭に、避難マニュアルなど、人命を守り安全に避難等が出来る方法について改めて点検し、必要な整備を行うことを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーや誇りに十分配慮し普段から言葉使いに気を付けている。言葉使いや対応については職員間で声を掛け合って直すように取り組んでおります。	コロナ禍は利用者の外出機会を奪ったが、一方で事業所内での生活を濃いものにしていく。事業所の方針に沿って、家事や園芸など出来ることを通じた生活自立力の維持、回復に努めている。布スリッパやハチマキづくり、家庭菜園での野菜作りを通じ、利用者はこれまで以上に会話が多くなり、笑顔が多くみられる。「徳を積みなさい」との利用者が話してくれた一言を大切に、職員は利用者の尊厳を損なわない介護の実践に努めている。入居時に広報への写真掲載の了解を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者とゆっくりと会話している。服装・食事等で利用者に対して見守りの中で、自由にさせて支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	多くの利用者の希望が実現できるようにその都度、意向を伺っておりますが、その希望すべてに応え切れない事もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の希望に任せている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の希望に任せている。希望メニューをきいたり後片付けを一緒に行っている。	献立、調理は、1号棟では職員が交代で、2号棟では調理専門の職員の手も借りながら行っている。食欲が増すように、色合いに配慮しているほか、軽体操、歌唱、手先を使う作業を意識的に取り入れている。桜を観ながらの食事会や味覚の秋の秋刀魚とホタテ、誕生日にはお寿司とデコレーションケーキなど、季節や行事に応じて利用者に喜んでもらえる食事の提供に努めている。	



令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ございしよの里2号棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人一人の身体状況や咀嚼能力に応じた食事作りに努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の状態で見守り・声掛け・介助を行い、口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	便・尿の回数チェックをおこなっており、それぞれに合わせた排泄支援を実施している。	両ユニット18名中7名が昼夜とも完全に自立し、寝たきりの状態にある1名はオムツにパットを併用している。夜は自立の程度に応じて支援し、リハビリパンツにパット使用の利用者には声掛けを行なっている。夜間トイレに立った際の合図となる、スリッパに付けた鈴の音は階下でも確認することが出来ている。夜間のポータブルトイレ利用者は全体で2名となっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のために、植物繊維・水分・乳製品を多くとれるような工夫と適度な運動をしてもらうよう支援しております。一人一人の状態です薬を使用するなどしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に合わせた支援をしている	希望がない限りは、3日に1度の入浴です。入浴中は、リラックスができて楽しく過ごせるよう心掛けている。	基本、週2回午前中の中の入浴とし、1号館は個浴、2号館は大型浴槽となっている。入浴を拒否する方はいない。職員からの声掛けで、利用者との会話が弾む大事な時間となっている。思いがけず聴き取った言葉があれば日誌に記入し、職員で共有している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居時、普段から使い慣れている物が良いと伝え持ち込んでもらっている。昼寝や就寝時間はきままってなく、利用者のペースに任せている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ホームで薬の管理をし、医師の指示で服薬している。服薬リストを介護日誌にセットし職員が目を通すように努めている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ごさいしょの里2号棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	休憩室で編み物をする入居者・歌を唄う入居者とそれぞれ好きなことをして頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は希望により日常的に散歩(施設中庭)をしたり、施設の庭で花見をしながら食事をしたり花火やスイカ割・バーベキューをしたりと楽しんで頂いております。コロナウィルス感染防止のため、バスハイクは実施せず。	季節ごとにドライブやバスハイクに出かけていたが、コロナ禍のため、敷地内の中庭などで散歩やプランターの手入れなど、職員のアイデアと工夫により利用者は活動的な日々を過ごしている。特に両棟ともプランターを備え、旬の野菜や花等を育て収穫する楽しみを体感している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者との預り金は、施設で管理している。入居者が希望する時は、職員同行するなど対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人に手紙を出したい入居者はいませんが、家族に電話かけたいという入居者に職員がついて支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔第一に考え快適に過ごして頂けりよう、花を飾ったり季節の飾りつけを作ったりと楽しんで頂いております。	清潔・清掃を第一に、1号館は職員が随時清掃し、2号館は加えて専属の清掃員が月1、2回来所し清掃を行っている。ホールには季節を感じさせ飾りつけや利用者の作品が飾られ、両棟とも広いホールが一層明るい雰囲気となっている。エアコン、加湿器、温風ヒーターを備え、程良い環境が保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室の2階の廊下に椅子を用意し思い思いに過ごす場所は確保できています。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ございしょの里2号棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	入居時に居室は、自分の家と同じに考え利用者 に今まで使用していた物を出来る限り使用するよ うすすめ利用者の好みに任せています。	居室にはカーテン、ソファが備えてあり、テレ ビ・筆筒・位牌・家族写真等を持ちこんでいる方も いる。また自らの手製作品を飾ったりして好みの 雰囲気が作られている。入り口の表札代わりに、 好みの動物の名前が掲示され、ユニークな雰 囲気を醸し出している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境つ くり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わ かること」を活かして、安全かつできるだけ 自立した生活が送れるように工夫している	歩行できる場所に手すりを設置しています。又、 廊下には、一休みできる場所を設けるなど工夫 をしています。		